

下記の記事を日本農業新聞へ提稿致しました。

H22.12.25

## ・新ひだか町静内和牛生産改良組合「分娩間隔実績値の部」受賞

新ひだか町静内和牛生産改良組合（組合長 渡辺隆 組合員35名）では、（社）全国和牛登録協会が今年度より新設された「分娩間隔実績値の部」で全国1位という快挙を達成しました。

今回の表彰では、全国で443ある認定和牛改良組合のうち（社）全国和牛登録協会の調査に基づき算出された平均分娩間隔の平均値上位15組合（道内では本組合をあわせた4組合が受賞）が表彰されています。全国の平均分娩間隔415.3日に対し、本組合での平均分娩間隔は378.1日（平成21年4月～平成22年3月 繁殖牛1,083頭の実績に基づく）という実績での受賞となりました。

このように全国1位を達成した本組合は、平成16年に新ひだか町静内地区で、黒毛和牛素牛生産に本格的に取り組もうと、渡辺組合長と土木建設業からの新規参入3名を含めた全14名でのスタートでした。

また、この時期は、日高地方の基幹産業である軽種馬生産の販売額が伸び悩み始めた時期と重なったこともあり、渡辺組合長の地道な活動や説得等により、現在では、その軽種馬生産との複合経営農家をはじめとした35名の組合員で組織されています。

本組合では、このように異業種からの新規参入や他品目との複合経営が多い中でも、組合員一人一人が個体管理の徹底を行い、講習会や指導部会等の積極的な活動を多数実施し、互いに切磋琢磨しながら「静内ブランド」確立に努めています。

また、渡辺組合長は、発情期間が12時間から14時間と非常に短く、しかもそれが夜間に集中する黒毛和牛では、軽種馬農家ならではの「夜飼い」という習慣が、発情の早期発見に繋がり、受胎率向上に大きく貢献しているとも話していました。この「夜飼い」は、病気等の異常の早期発見にも繋がっており、渡辺組合長も「軽種馬生産農家ならではのきめ細かい管理」という言葉を何度も使っていました。

今後の展望について、渡辺組合長は「今年は目標としていた販売金額3億円も突破しました。今後は繁殖牛を1,500頭程度まで増頭し、静内産ミニトマト「太陽の瞳」に並ぶ特産品にしていきたい」との意気込みを語っていました。



・新ひだか町静内和牛生産改良組合（平成16年創設）  
組合長 渡辺 隆（わたなべ たかし）  
組合員 35名  
（軽種馬複合21人 異業種4人 専業2人 兼業8人）

今回、「分娩間隔実績値の部」で表彰された道内4組合のうち、3組合（日高町和牛生産改良組合、新冠町和牛生産改良組合、新ひだか町静内和牛生産改良組合）が日高地方で占めています。